

※個々の用語・表現につき、イートモ検索で得られた対訳を 1 件のみ提示します。

※実際にはたくさんのイートモ対訳がヒットしますので、文脈に応じて対訳を選択して適当に改変して利用してください。

和文原稿
18. 薬効薬理
18.1 作用機序
ルラシドンはドパミン D2 受容体、セロトニン 5-HT <sub>2A</sub> 、5-HT <sub>1A</sub> 及び 5-HT <sub>7</sub> 受容体に対して結合親和性を示す 8)。ルラシドンはドパミン D2 受容体アンタゴニスト作用、セロトニン 5-HT <sub>2A</sub> アンタゴニスト作用、5-HT <sub>7</sub> 受容体アンタゴニスト作用及びセロトニン 5-HT <sub>1A</sub> 受容体部分アゴニスト作用を併せ持ち 8)、これらの薬理作用が臨床における有用性に寄与しているものと考えられる (in vitro)。
18.2 統合失調症の諸症状に関連する in vivo 試験系における作用
ルラシドンは陽性症状の指標と考えられているラットメタンフェタミン誘発運動過多を抑制し 8)、認知機能障害の指標と考えられているスコポラミン/MK-801 誘発性の受動的回避試験におけるステップスルー潜時の短縮を改善した 27)。また、ラットマイクロダイアリスिसにおいて、認知機能や陰性症状に対する改善作用及び抗うつ作用発現との関連が示唆されている前頭前皮質でのドパミン遊離量を増加させた 28)。
18.3 うつ・不安症状に関連する in vivo 試験系における作用
ルラシドンはラット恐怖条件付けすくみ行動評価、ラットフォーゲル型水飲みコンフリクト試験、ラット電撃プローブ埋め隠し試験及びラット社会相互行動評価でうつ・不安症状の指標とされる行動変化を抑制又は改善した 29)。

## 18. 薬効薬理

### 18.1 作用機序

ルラシドンはドパミン D2 受容体、セロトニン 5-HT<sub>2A</sub>、5-HT<sub>1A</sub> 及び 5-HT<sub>7</sub> 受容体に対して**結合親和性**を示す 8)。ルラシドンはドパミン D2 受容体**アンタゴニスト作用**、セロトニン 5-HT<sub>2A</sub> アンタゴニスト作用、5-HT<sub>7</sub> 受容体アンタゴニスト作用及びセロトニン 5-HT<sub>1A</sub> 受容体部分**アゴニスト作用**を**併せ持ち** 8)、これらの薬理作用が臨床における有用性に**寄与**しているものと考えられる (in vitro)。

Like other fluoroquinolones, distribution studies showed that Drug A exhibited a strong binding affinity to pigmented structures.	他のフルオロキノロン系薬剤と同様、分布試験により、薬剤 A は色素性構造物に強い <b>結合親和性</b> を示すことが明らかにされた。
---	--

アンタゴニスト作用→拮抗作用	
In isolated guinea pig ileal preparations, Drug A was 300-fold weaker than Drug B as an antagonist against acetylcholine.	摘出モルモット回腸標本において、薬剤 A はアセチルコリンに対する <b>拮抗作用</b> が薬剤 B の 1/300 であった。

After Drug A administration, the pupil diameter, a surrogate marker for $\mu$ -opioid receptor agonistic activity, changed in a dose-dependent manner.	薬剤 A の投与後、 $\mu$ オピオイド受容体 <b>アゴニスト作用</b> の代替マーカーである瞳孔径が用量依存的に変化した。
--	--

併せ持ち→併せ持
----------

Drug A is a centrally acting analgesic compound combining opioid and non-opioid activities.	薬剤 A は中枢性に作用する鎮痛薬で、オピオイド作用と非オピオイド作用を併せ持っている。
---	--

Functional studies have revealed that nicotinic acetylcholine receptors contribute to the control of resting membrane potential.	機能解析により、ニコチン性アセチルコリン受容体は静止膜電位のコントロールに寄与していることが明らかにされている。
--	--

### 18.2 統合失調症の諸症状に関連する in vivo 試験系における作用

ルラシドンは陽性症状の指標と考えられているラットメタンフェタミン誘発運動過多を抑制し 8)、認知機能障害の指標と考えられているスコポラミン/MK-801 誘発性の受動的回避試験におけるステップスルー潜時の短縮を改善した 27)。また、ラットマイクロダイアリシスにおいて、認知機能や陰性症状に対する改善作用及び抗うつ作用発現との関連が示唆されている前頭前皮質でのドパミン遊離量を増加させた 28)。

During a 21-day washout period following 75 days of treatment with each drug, the number of repetitive jaw movement (RJM) episodes per 5 minutes was counted as a measure of tardive dyskinesia.	各薬剤を 75 日間投与した後、21 日間の休薬期間中に 5 分間あたりの反復顎運動(RJM)の回数をカウントし、遅発性ジスキネジアの指標とした。
--	---

改善作用→改善効果	
Levosimendan, a novel calcium channel sensitizing agent, has been demonstrated to improve symptoms in the short term.	レボシメンダンは新規のカルシウムチャンネル感受性増強薬で、短期的には症状の改善効果が証明されている。

The purpose of this study is to assess the onset of action and time to maximal response in subjects receiving Drug A in combination with Drug B.	本試験の目的は、薬剤Aと薬剤Bの併用投与を受ける被験者において作用発現及び最大効果到達時間を評価することである。
--	--

Pallidal GABA release increased significantly after nigrostriatal dopaminergic neuron destruction.	淡蒼球からの GABA 遊離量は黒質線条体ドパミンニューロンの破壊後に著しく増加した。
--	---

### 18.3 うつ・不安症状に関連する in vivo 試験系における作用

ルラシドンはラット恐怖条件付けすくみ行動評価、ラットフォーゲル型水飲みコンフリクト試験、ラット電撃プローブ埋め隠し試験及びラット社会相互行動評価でうつ・不安症状の指標とされる行動変化を抑制又は改善した 29)。

There was no evidence of clastogenicity or disruption of mitotic apparatus in in vitro or in vivo test systems.	in vitro 試験系又は in vivo 試験系のどちらでも、染色体異常誘発性又は有糸分裂装置の破綻《破壊》を示すエビデンスはなかった。
---	--

Animals were observed for 14 days following treatment for clinical signs or behavioral changes suggestive of toxicity.	動物は、毒性を示唆する一般状態の変化又は行動変化の有無について投与後 14 日間観察した。
--	---